1998年10月9日第三種郵便物認可　（毎月3回8の日発行）
2018年5月3日発行　SSKU　増刊通巻第6080号

NPO法人わくわくかん
編集　〒115-0044
東京都北区赤羽南2-6-6
TEL:03-3598-3337

シャケZoくん

SSKU わくわくかん リボン便り

http://www.wakuwakukan.net/

2018年5月号　No.206

??なぜリボン??

生まれ変わった
再生したという意味の
（Reborn）。
新しく生まれ変わる
「便り」にしたくて、名付けました。

３つのテーマで酒井さんから助言

リボーン・ボランティア響会の合同職員研修

特定非営利活動法人わくわくかんでは、各事業を利用されている方々への支援の質の向上のため、法人内職員研修を実施しています。

今回はリボーンプロジェクト・ボランティア響会（就労移行支援・自立訓練）の職員に向けた研修を企画することになりました。講師として、兼ねてから大変お世話になっている社会福祉法人共生福祉会なごや障害者就業・生活支援センター及び、なごや職業開拓校センター長の酒井英夫さんにお越し頂けることになりました。酒井さんより「何でもやりますから、テーマを挙げてください」と、何とも心強いお返事がありました。職員にどんなテーマの研修を行いたいかを尋ねると「ケース検討」「就労支援に自信を持つには？」「職員のメンタルヘルスについて」という、ケース検討以外は、何ともざっくりとしたテーマがあがりました。

３月23日心待ちにしていた研修当日。新幹線で、はるばる名古屋から来られ、お疲れのご様子もなくすぐに研修へ。野球元監督の星野仙一さんやビートたけしさんと同じ年齢と自己紹介をされ、一気に場が和みました。

第１部のケース検討では就労移行と自立訓練から１ケースずつ出し、検討会を行いました。職員同士の活発な話し合いに続き、見守っていらっしゃった酒井さんから「今、良い話し合いが出来ていたじゃない。答えが出ていたよね」とのお言葉がありました。また、「当事者の方が必要としないことを専門家が押し付けない事。まず専門家としてのフィルターを通さず、一度白紙にして、ご本人の人生を一緒に考える。夢・思い・ニーズを理解し受容する。それを実現するためにどんな支援を行うことができるかが大切」というお話を頂きました。

第２部は、「就労支援に自信を持つには」というテーマです。酒井さんより、「このテーマで何を講義したら良いか…とても悩みました」というお話の後、「自信があるから支援をする、自信がないからしないではない。自信がなくても支援はできる」という心強いアドバイスを頂きました。

第３部は、「職員のメンタルヘルスについて」では、職員同士ざっくばらんに精神面の健康について語りました。酒井さんからは、「チームの力を上げる。失敗をチームで共有する」「チーム内のコミュニケーションを円滑にして、１人で抱え込まないこと」というアドバイスを頂きました。

研修終了後は、酒井さんを囲んでのお食事会を開催しました。研修の中だけでは語れなかった仕事の話や職員からの相談を気さくに聴いてくださいました。

酒井さんは、「遠慮なくこれからどんどん相談してほしい、また東京にも呼んでほしい。東京と名古屋は距離がありますが、連携はそれとは関係はありません」と話され、これからも私たちとの繋がりを約束してくださいました。今回の研修で学んだ内容は、さっそく実践していきたいと思います。そして、わくわくかんを利用されている皆様の気持ちに寄り添った支援を行えるよう、努力してまいります。　（A.K）

＜わくわくかん５月予定表＞

- ✧ 5月12日（土）はたらっくす　16:00～（自立訓練室）
- ✧ 5月19日（土）A型の大量解雇問題を考える　13：00～　草津アカデミー　滋賀A型事業所協議会
- ✧ 5月23日（水）理事会15：00～　定期総会17：00～　赤羽会館
- ✧ 5月28日（月）現場協議会　16:30～（スカイブリッジ）
- ✧ 5月29日（火）家族懇談会　16:00～（自立訓練室）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 5 月 3 日発行　SSKU　増刊通巻第 6080 号

就労継続支援 A 型事業
北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-0089
FAX：03-3598-0089

わくわく配食サービス

新じゃがの煮っころがし

＜材料（二人分）＞

- ✓ 新じゃがいも（小）…8 個
- ✓ だし汁…1 と 1/2 カップ
- ✓ サラダ油、砂糖、みりん
- ✓ しょうゆ、七味唐辛子

＜作り方＞

① じゃがいもは皮と皮をこすり合わせるようにして洗い、大きければ皮つきのまま半分に切る。

② 鍋にサラダ油小さじ 2 を中火で熱し、じゃがいもを炒める。油が回ったらだし汁を加え、煮立ったらふたをして弱火にし、10 分ほど煮る。

③ ふたを取り、砂糖、みりん各大さじ 1 を加え、5 分ほど煮る。しょうゆ大さじ 1 を加えて中火にし、3 分ほど煮て、汁けがなくなったら器に盛り、七味唐辛子適宜をふる。

栄養満点！新ジャガイモ

新じゃがいもの季節がやってきました。じゃがいもの収穫は春と秋。産地によって収穫時期のずれがありますが、一般的に春に収穫されたじゃがいもを「新じゃが」と呼びます。皮が薄くて、みずみずしく茹でればツルリと皮が剥がれるのが新じゃがの特徴です。

じゃがいものビタミン C はでんぷんがビタミン C を包み込んで保護するので、加熱しても壊れにくいのが特徴です。ビタミン C は体内の粘膜を強化し、胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに有効と言われています。豊富に含まれるカリウムは体内のナトリウムを排出し、塩分バランスを調整するので、高血圧の予防にぴったりです。

法人内で、月に一度行われる現場協議会という会議があります。現場協議会には、各事業所の管理者と出席できる職員はなるべく参加することになっています。事務局長が司会進行、副理事長も参加していただいています。会議の内容は、各事業所の報告と協議するテーマに沿って話し合いをします。1 時間 30 分程度の時間ですので話し合いの導入部分という意味合いかと思います。

◀月 1 回の現場協議会▶
「中期計画」の議論がスタート

先月の議題は、法人としての中長期計画をそうするかというテーマでした。現場としての意見をまとめることも必要であり、なぜ中長期計画が必要なのかということを考えることも必要であるということも副理事長よりお話しがありました。

会議の時に出た意見は、「現場で困っていることをあげていく。社会的事業所にしたい、安心して勤務が継続できる体制、福祉サービスに振り回させることなく運営したい。利用の方が、将来への不安が少しでも少なく生活できる法人としての体制作り・・・」いろいろテーマがでました。

今後、各事業所で他のスタッフとの話し合いを重ね、最終的には理事会での検討を行い、法人としての長期計画を決めその長期計画を達成するために、中期計画を決めていくことになると思います。こうした、取り組みをすることで利用の方の要望と働くスタッフの要望が叶い、より良いサービス提供につながることを期待できるのではないかと考えた会議でした。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 5 月 3 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6080 号

自立訓練（生活訓練）事業 ボランティア響会

通称 響（ひびき）

〒114-0032　北区中十条 1-2-18
北区障害者福祉センター4F
TEL 03-5963-6888

＜外出報告＞東京タワー

３月９日に外出のプログラムで東京タワーに行きました。その日は雨でしたが電車や東京タワーなど室内にいる時間の方が長かったので苦になりませんでした。まず、ひびきから王子駅まで歩いて、南北線から後楽園まで乗って、さらに春日まで歩いて、都営三田線で御成門で降りて東京タワーまで歩きました。

その交通ルートは、ほとんど待たずにスムーズに到着しました。東京タワーに着いてまず、昼食をとりました。タワー内のフードコートのそば屋でカレーうどんを食べました。おいしかったです。その後、たばこを一服したり、休んだりした後、展望デッキのチケットを買い、エレベータに乗りました。私、O は休んでいたのですが、他の皆さんは景色を眺めていました。中でもＮさんは床が透明になっている場所を歩いていましたが、Ｎさん以外は歩けませんでした。なぜなら他の皆さんのほとんどが高所恐怖症だったからです。展望台から降りた後はおみやげなど買ったり、ジュースを飲んだり、とても良かったです。帰りは東京タワーから 1.4 ㎞歩いて浜松町駅まで行き、京浜東北線に乗り、解散になりました。私、O としましては、とても良い一日でした。

＜ミニ外出＞　～散歩～

3 月 7 日散歩のプログラムがありました。

今回は十条の野鳥の森公園、お富士さん、十条商店街を巡りました。野鳥の森公園は大通りから脇道には入り、住宅街の中にポツンと有る、空地の様なところでした。中に入ると、それらしい木々は有るものの、一羽の鳥も見当たらず閑散としていました。お富士さんは道端に石積みの小山の様な、いわゆる富士塚で、毎年「お富士さん」というお祭りが 6 月 30 日、7 月 1 日と行われます。当日は出店も無く、静かな所でした。

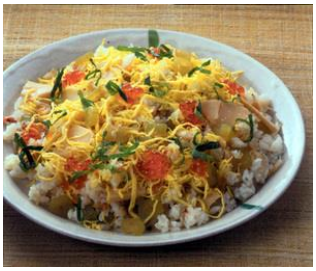
十条商店街では自由に散策と買物、T さんにとっては地元なので見慣れた景色。特に新発見は無かったものの気分転換になったそうです。十条商店街は、アーケードもあり、つくづく大きな商店街だと思いました。

（H・T　F・H）

＜クッキング　報告＞

みんなで、ちらし寿司

3 月 16 日（金）、クッキングでちらし寿司とお吸物を作りました。具材を決定するのにみなさんで相談しました。その後、サミットに買い物に行きました。買い物に行く前にご飯をスイッチ ON して行きましたが、ご飯が時間ギリギリに炊けました。ご飯がたけたらちらし寿司の素をまぜました。



そしてちらし寿司の上に具材の穴子、キヌさや、カニかま、錦糸たまごをトッピングしました。最後に生姜をふりかけました。

お吸物を作るためにＫさんがだしを作ってくれました。そこに菜の花を入れ、その他しめじ、麩、わかめを一緒に入れました。最後にときたまごを入れて完成です。とてもおいしく出来ました。

＜新しいメンバーの声＞

～響に入って～

◎わたしは響に入って、今２か月弱です。はじめは緊張していました。わたしは響に通うようになるまでは、夕方ごろまでだらだらと寝ていたので、家を出るべき時間に「まだ寝ていたいなあ」と思うことがあります。寝る前の薬が残っているのだと思います。まだ、メンバーさんのお名前とお顔を覚えている途中です。席が遠くに毎回座る人が覚えられません。（すいません）

プログラムは、けっこう充実していて良いです。ハプニングがあって欠席になどなったりしていますが、また、がんばって出ていこうと思っています。（I.Y）

◎某就労移行支援所を卒業して、響に入りました。前が、個別に支援してもらっていたのですが、響ではグループ活動が主です。どちらが良いかではなく、事業所の個性だと思います。

２月に生活リズムを壊して、３月に両親が各々入院してしまい休みが多く、３月の響きのリズムにまだ乗りなれていないです。早く皆の仲間となってプログラムにも積極的に参加したいと思っています。（S.M）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 5 月 3 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6080 号

就労移行支援事業

リボーンプロジェクト

〒114-0032　東京都北区中十条 1－2－18
北区障害者福祉センター４F　Tel：03-5963-6888

「体力作り」 ー飛鳥山の花見

通勤疲れという言葉があるように、会社に行くだけでも意外と体力を使います。普段からリボーンに通うだけでは体力が十分つけきれないな…と考えていたら、センター周辺の桜が満開に！そんなわけで、気分転換と体力作りも兼ねて飛鳥山公園まで散策に行ってきました。

リボーンを 10 時に出発し、まずは北区役所近くの音無橋の桜へ。階段で川沿いまで降り、橋の下から桜を見ました。その後、王子駅を抜け、歩道橋を渡り、線路沿いの階段を上って飛鳥山公園に向かいました。この時点でまだ 30 分しか経っていなかったのですが、運動不足の方にはなかなかな運動量になったようで、息が上がっている方もちらほらと。飛鳥山公園では、散策組と休憩組に分かれたのですが、散策組は若手の数名のみ…。半々ぐらいに分かれるかなと予想していたのですが…皆さん、思った以上にお疲れのご様子でした。

ちなみに、散策組は飛鳥山公園、旧渋沢庭園を 1 周しました。途中、旧渋沢庭園内の東屋で一休みをしたのですが、わずか 5 分程度。その時間以外は、行きも帰りもひたすら歩き続けていました。若いとやっぱり体力がありますね…。休憩組は、桜を眺めながら雑談をして過ごされていました。

仕事の能力だけでなく、毎日通勤するための体力も就労継続には欠かせません。今後も気分転換も兼ねつつ、近場の散策などを取り入れながら体力作りも考えていきたいです。

＜感想＞

★いつもは業務など多い日であるけど時には花見（体力チェック）などで気分転換などをし楽しめました。(Y･E)

★普段、よく歩いてはいるのであまり疲れはしませんでした。桜の花がとてもきれいで良い気分転換になりました。飛鳥山公園は子供の頃、よく行っていたのでなつかしい気分にもなれました。(K・Y)

★花見をしながらいろいろな話をして、気持が楽しく、リフレッシュすることができました。今日で最後になりますが、3 年間リボーンに通所することが出来て、いろいろなことを学ばせていただきましたので、今後は学んだことを活かしながら生活していきたいと思います。(I・Y)

★歩いて行きましたが結構距離が近く感じました。話しながら歩いたせいかそんなに疲れを感じませんでした。晴れた日にきれいな桜を見れたので気分転換になりました。(S・A)

★桜がピークを過ぎて葉桜になっていたのですが風が吹く度に見られる桜吹雪がキレイでした。お花見客の人々が場所取りのついでに昼間からお酒を飲んでいて少しうらやましかったです。(K・M)

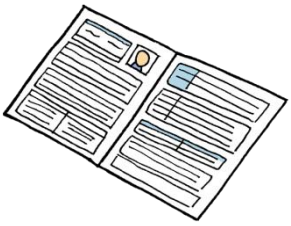
★皆さんとお花見散歩ができてよかったですとても楽しかったです。（I・Y)

★桜が満開ですが、花びらがたくさんちっていたので、花も人の人生と同じはかなく、あっけないと思いこの時期だけの大事な機会だと思いました。（U・F)

★普段一人で花見に行くことはあまりないので、良い機会でした。花を見て気持ち切り替えが出来たので、これから今まで以上に前向きに業務に取り組みたいと思います。(K・H)

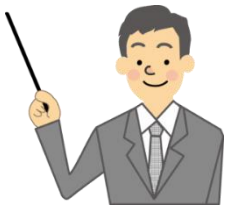
「実習・就職活動の動きが活発に」

ちょうど春は、会社でも人が入れ替わるシーズンです。リボーンでも、春に入って実習や就活など、次のステップに進まれる方がかなり増えました。連日自習で自分を振り返り、配慮事項の整理や自己PR作りをスタッフと一緒に取り組んでいます。何度もリテイクをしながら、より良い応募書類を作るために頑張っている姿を見ると、いよいよ卒業が近いんだな…と、心なしか寂しくなります。ですが、ここはあくまで訓練をする場なので、希望する仕事に就いて、長く働き続けていただくためにも、スタッフ一丸となって、実習・就活を応援していきたいと思います！！



1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 5 月 3 日発行　SSKU　増刊通巻第 6080 号

第１回　わくわくかん　家族懇談会のお知らせ



開催日時：　2018 年５月 29 日（火）16：00～　自立訓練室
内　　容：　当事者が語る～病気・就労について
連 絡 先：　TEL　03－5963－6888　FAX　03－3906－9997

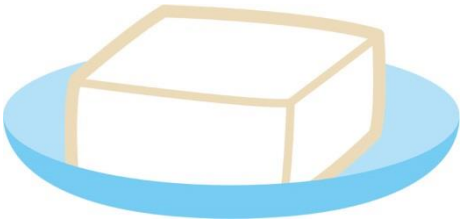
共同連マラソントーク＆視察　in 埼玉　深谷

一人一人が「共に働く」をつなぐ―興味深かった「とうふ工房」

～誰もが安心して働き生活できるまちづくりから学ぶ～

４月 15 日、共同連マラソントーク＆視察の２日目に参加しました。マラソントークでは 1978 年から活動しているわらじの会の「障がいのある人もない人も地域で共に」の多様な実践報告がありました。「福祉」という言葉で語られがちな障害を持つ人の暮らしの課題などを、専門家や家族に任せきりにするのではなく、障がいのない人を含めた”共に暮らす街の問題”として日常の中で「共に」を進めていこうという実に多様な報告でした。

私には実践報告されたワーカーズコープ・センター事業団の岡本かつ子さんのお話が印象的でした。ワーカーズコープとは、協同組合の一形態。そこで働く労働者自身が主として資金を持ち寄り、労働者自身によって所有・管理される協同組合です。岡本さんのワーカーズコープは 1987 年に埼玉北部地域で誕生。物流現場の生協委託事業で 30 人の仲間が働いていたのが 60 人に仲間が増えましたが、不況から一転、委託側の契約解除があって、20 人になったそうです。その後、組合員の中から「仕事が無くなるのなら、何か自分たちで新しい仕事をつくりたい」という声が出始め、新聞記事をヒントに豆腐づくりの見学を実施。「本物の豆腐づくり」をしようと組合員へ提案し「新しい仕事おこしの挑戦」の話し合いが始まりました。全組合員へ呼びかけ、みんなで仕事終了後に徹底した話し合いの場を持ち、ほぼ毎日話し合ったそうです。全組合員・地域の方から出資は集まり 1995 年に「とうふ工房」がオープン。６坪のお店に国産大豆、天然にがり 100%。昔ながらの本物の豆腐は口コミで広がり地域の方や高齢者が買いに来られ、１日 180～300 丁売れました。



その後は、お店を運営する中で、地域の課題が見えるようになって、次の事業として、高齢者向けの弁当配食事業「愛彩」をオープン。３０食から始まった愛彩は、冷凍を使わず地域の畑などから食材を調達したり、だしも手作り、手渡しで安否確認を行うことなどを行って来たそうです。さらに、食事業を通じて見えてきた独居の高齢者・老夫婦世帯が多いという現状に対して、高齢者を支える仕組みを創ろうと話し合いを行ったそうです。福祉課と食懇談会や、ヘルパー講座の開講、「ヘルパーステーションだんらん」の立ち上げを行った。

その後も数々の福祉サービスも含めた事業を展開されていますが、わくわくかんとも共通する部分（配食事業やヘルパー事業所など）が見受けられます。参考にしたい点は、やはり、話し合いの場を徹底的に設けたという点です。ワーカーズコープという点で組織の成り立ち方や出資などの違いはあるものの、皆が納得できる形での意思決定に発展の源があるのではないかと私は感じました。自分たちの意志が、組織に反映されている実感は、強いモチベーションにつながるのだと想像します。そういった着想に至ることが出来た点でも、今回、私の中で有意義な学びになりました。（S.F）

４月はたらっくす報告

当事者がヘルパーになって支援をさせて頂く中で

私はわくわくかんのヘルパーステーションでヘルパーをさせて頂いて４年目です。わくわくかんのヘルパーは殆どが障害当事者です。私は支援をさせて頂いている方を対等な「仲間」と思ってお仕事をさせて頂いています。

「通院同行」といって、通院に付き添うというお仕事がありますが、本来は、ヘルパーは付いて行く事だけがお仕事で、診察で助言等はしてはいけない、と聞きました。しかし「仲間」として付き添うと「一言これを言いたい」という事がどうしてもあります。実際には法律に触れる事かもしれませんが、そういう事を私は先生に伝えてしまいます。

私は、制度はニーズがまず有って後付けで生まれる、と思っています。ですから仕事上で明らかにニーズがある事は実行します。先生もパソコンに「M.H ヘルパー」と私の名前を打っていて「こんな私を認めてくれているのだ」と力を貰えます。

私はこれからも支援させて頂く方が「毎日を活き活きと生きがいを持って生きて行く」ためのお手伝いを微力ながらもさせて頂きたいと思っています。(M.H)

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 5 月 3 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6080 号

都政民協

東京都精神保健福祉家族会連合会
東京つくし会 50 年の歩み

東京都精神保健福祉民間団体協議会（都精民協）の２月 21 日の公開学習会に参加してきましたので、読者のみなさんに概要をご報告します。

◆人権を守るために

1964（昭和 39）年に精神障がいのある青年が駐日大使にケガを負わす事件があり、社会防衛のための法改正がなされようとしました。これに対して、精神科病院家族会と地域家族会が日本精神神経学会と共に行動を起こし、法改正を思いとどまらせることができました。その翌年に「全国精神障害者家族連合会（全家連）」が結成されました。

◆東京都内の家族会の連合会結成と要望活動　新家族会設立支援、啓発活動

1968（昭和 43）年に「東京精神障害者を守る連合会（都連）」が結成され、10 ヵ所の家族会が加盟しました。街頭宣伝や講演会、東京都への要望、都議会への請願、陳情を重ね、都からの扶養年金制度や職親制度の支援を実現しました。発足 4 年後には 22 単会に増えました。

◆東京都のリハビリテーションセンター開設諸制度充実の運動推進

1972（昭和 47）年には、都立世田谷リハビリテーションセンター（現在の都立中部総合精神保健福祉センター）が都連の運動により開設されました。同年、都連の相談事業が開始され、翌年には、都からの委託事業になりました。1978（昭和 53）年には、都による精神科救急医療が開始されました。

◆各地の家族会による「共同作業所」開設と支援施設拡充、法人化

1978（昭和 53）年に「共同作業所全国連絡会」第 1 回全国集会が開かれました。1980（昭和 55）年には都内の共同作業所は 10 ヵ所となり、翌年には都が共同作業所に予算を付けることになりました。家族会のいくつかは後年、NPO 法人や社会福祉法人各を取得し、支援事業所を開設していきました。しかし、法人の維持に多大なエネルギーと時間が取られ、家族支援や要望活動を行うゆとりが失われていきました。そのため、法人から家族会が分かれ任意団体に戻る例がみられるようになりました。

◆保健所との共同活動

1975（昭和 50）年半ばから 1994（平成 6）年頃にかけて、各地の保健所・出張所では、精神障がい者の家族を対象にした家族教室や家族会の設立、当事者対象のデイケア、作業所開設に力を注ぐようになりました。しかし、1994（平成 6）年の保健所法が改正され、地域保健法が制定されると保健所の数が激減し、従来の保健所の活動を担えないままでいるところが多くなりました。家族会にとって大きな痛手となり、今日に至っています。

◆家族会衰退の現象と家族会連合会への単会の協力の難しさ

親御さんの期待に反して作業所に通わない、もしくは、人間関係や内容に不満をもって退所したことに落胆して、家族会を退会する例が多くなってきました。また、インターネットの普及で、情報が簡単に得られるようになり、情報源としての家族会の存在意義が減少するようになりました。

◆要望活動の環境としての東京都知事の変遷

美濃部知事の時代に精神科リハビリテーションセンターの設立、精神科救急医療の開始、職親制度、扶養年金制度などが実現されました。石原知事時代には、都営交通の無料化、民間バス半額割引が開始されました。小池知事においては、「障害者医療費助成制度」の精神障害者への適用をしました。いずれも、地道な要望活動の成果です。

◆関係団体との連携

1992（平成 4）年、都内の 5 つの関係団体が集まり、「東京都精神保健福祉民間団体協議会（都精民協）」が結成されました。これまで、ばらばらで東京都と交渉していたのを、団結して政策提言、要望活動、啓発講演会等を行うこととなりました。後に、8 団体となり現在に至ります。

◆都連のブロック体制構築

2007（平成 19）年、弱体化しつつある個々の家族会への支援を強化するために、都連では都内を 3 ブロックに分け、23 区東ブロック、23 区西ブロック、多摩ブロックとしました。近隣の家族会同士での助け合い、励まし合いと連帯が定着し、今日まで変わらずに続いています。

◆相談員養成講座の開設

2010（平成 22）年度より、精神科医のご協力を得て、家族相談員養成講座を開き、好評を得ています。

◆全国組織の解散と再建への貢献

全家連は栃木県に保養施設と授産施設を建設したことで、赤字経営となり、解散となってしまいました。2006（平成 18）年に新しい全国組織「全国精神保健福祉連合会」（みんなねっと）を立ち上げた時には、人材を都連が提供しました。

最後に、印象に残った言葉を記します。
「家族会は当事者だけでなく、家族も守らなければならない。」　**（H.Y）**

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 5 月 3 日発行　SSKU　増刊通巻第 6080 号

自由ということ　西部邁氏とホーキング博士

投稿

時を前後して西部氏とホーキング博士が亡くなった。片や人の手を借りての自死であり、片や最後まで宇宙の真理を追究し、病と闘いきっての死であった。西部氏はあるテレビ番組で、動物とは違い人間は死を選ぶことが出来る。それゆえ人間は自由であるというようなことを言っていた。

たしかに人間は死を選ぶことが出来る。だからこそ死ではなく、生を選ぶことも出来る。サルトルが言うように、「われわれには、選択する自由であるのであるが、自由であることを選択するのではない。われわれは、自由へと呪われており、自由のなかに投げ込まれている」ということだろうか。

凡庸な価値観に立ち、生を選び続けたい

卑近な例をあげれば、暇つぶしに時間を費やす自由がある。一方そうしないで教養を高めようと努力する自由もある。人との出会いを避け、引きこもる自由もあれば、それを選ばず外に出て、生きた人間との交流を求める自由もあるだろう。自分ファーストで他人を蹴落とす自由もあれば、人と人との共生を目指す生き方を選ぶ自由もある。死と生において自由のなかに投げ込まれた両氏が、それぞれした選択の違いは、両氏の価値観によるものだったのだと思う。西部氏は自分自身が氏にとっての価値そのものではなかったか。だから自分が病や老いで変わっていくことに耐えられず、自己像と現実の自分との乖離を厭い、生を拒み死を選んだのではないか。ホーキング博士は西部氏以上に受け入れがたい病と闘いながら、宇宙の真理という自分は別次元の何かを最上の価値にしていたのではないか。だから、最後まで青年の好奇心と探求心を保ちながら、生を選択し続けたのではないか。西部氏は優れた思想家であったのだろう。その言説は多くの人に影響を与えていたのであろう。しかし、氏が自分自身よりその思想に高い価値を置いていたとすれば、果たして自死を選んだであろうか。西部氏はいったい自分の言説にどれほどの価値を置いていたのだろう。

わたしには、西部氏の選択とホーキング博士の選択のどちらが正しいかを決めることはできない。しかし、西部氏はその知性と教養にも関わらず、実際は空虚な人間だったように思わざるを得ない。わたしは両氏のような知性は持ち合わせていないが、大切な人々のためという凡庸な価値観に立ち、生を選び続けたいと思う。本当にそれを選ばなくてはならない時には、想像もつかない勇気が必要なのだろうけれども。両氏のご冥福をお祈りします。　（S・K）

現場からのひとこと⑪

一般就労を迎えたＩさんのこと

就労継続支援事業所A型で勤務していたＩさんについて書きます。Ｉさんは、配食サービスに勤めて2年ほどが経つベテランです。人当たりも良く、後輩や他から来た実習生などにも気さくに話、仕事を教える方でした。

Ｉさんは洋服が好きで、A型事業所で仕事に対する自信がついてからこの場所を辞め、洋服屋で働くことを夢見ていました。その機会が訪れたのは、昨年の秋頃のことです。

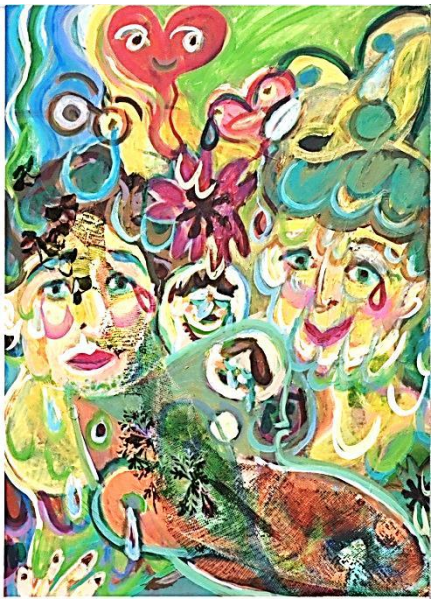
就職先を見つけている最中、ひとつの職場から実習をさせて頂くこととなり、喜んで一週間の実習を行いました。実習中は慣れない作業からよくメモに書き込みや読みながら作業にあたるＩさんを陰ながら見ていました。人混みが苦手なＩさんは、自分自身で、「いつ来ても人の多い駅だし、お店も人が多いからやっていけるのかな」と多少なりとも不安を感じている様子でした。また、職場独特の単語や、人との接し方、自分が障がい者であることに対しても不安があったようです。初めてのことだらけで、体調を崩すのではないか、ストレスを感じているのではないかと私の方も不安にもなりました。

実習を終えてからはまさにとんとん拍子で面接を受け、合格をし、2月から一般就労を迎えることができました。これは、ご本人の努力や周りの方々の協力なくして一般就労はできなかったと思います。

大好きな洋服に囲まれた職場でイキイキと働くＩさんを見て、長く働いてほしいと願っています。**（配食サービスＡ）**

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 5 月 3 日発行　SSKU　増刊通巻第 6080 号

絵の楽しみ－新人＆OB から



デイケアで「久しぶりに絵を描いてみるか」って言う気楽な気持ちで描いた。画材は、色鉛筆とアクリル絵の具で鉛筆などの下描きは一切なし。主人公のオッドアイの操り人形を基準にとにかく気楽に描いた。描いていくうちに突然「何故か、怖いものが欲しい」って思って大きな目を描いたり「敵か味方か分からない動物が欲しい」って思って黒猫を描いたりなど突然思いつく事もある。

描いていくうちに楽しくなり「他の皆さんは、この絵を見てどんな反応をするだろう？」って思い、絵のタイトルを『無題（皆さんは、この絵をどう思いますか？）』って感じに色々追加したりした。スケッチブックから紙を破く時に失敗をしてしまい裏にテープを貼り、絵に縫い針を描いてごまかしている。絵が完成した時にデイケアの皆が見てくれて嬉しかった。「不思議の国のアリスみたい」って反応してくれたりして楽しかった。

（新人 I.Y）

おかげさまで、水彩連盟展に「桜にしずく」が初人選できてうれしいです。土日の、仕事ない日に、一月半かけて描きました。寒い時期でしたが、リズムを崩さず仕事が順調だったのでトライしてみました。

父から、公募展に絵を出すよう言われ続けていたので、やっとその気持ちになれて、結果もついてきて、本当にラッキーです。

国立新美術館の展示入口で、勇気を出して障がい者手帳と出品者証(出入自由、自分のみ)の両方を提示すると、「どうぞお入り下さい。」と言われて、両親まで無料でした。理解があっていいなと思いました。

帰りに寄ったカフェで「こんな場所に連れてきてくれてありがとう」と母から言ってもらいました。親孝行にもなり、本当によかったです。　（OB まど）

就労支援センター北わくわくかん
登録者（2018 年３月末）747 名
就職者 ２名（一般事務・ＳＥ）

先月　ご協力いただいた皆様

東京都労働局・東京都精神保健福祉民間団体協議会・北区障害福祉課・北区健康推進部・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉センター・ハローワーク王子・池袋・飯田橋・東京障害者職業センター・わらじの会・ワーカーズコープ・センター事業団・（社福）月山福祉会・NPO 法人太陽と緑の会・NPO 法人あしたや共働企画・シャロームの家・結・職場参加を進める会・東京都障がい者就業支援事業所の会・東京しごと財団・㈱あおぞら銀行・㈱ECA・戸田中央看護専門学校・NPO 法人共生ネットワーク・わっぱの会・北区子どもの遊び場をつくる会

等、お世話になりました。

グループホームわくわくかん

現在、男性ホームの空室がうまりません。先日、30 代前半の爽やかな青年 N さんが体験にきてくれ、すぐに同室者 S さんと打ち解け、無事に初日は終了。フルタイムで就労している彼の休日に合せて、振返りのための面談を予定していた日の朝 8 時、彼からの電話。「職場で欠勤が出て、代わりに出勤します！」で面談はキャンセル。次の週の休みの日に電話でアポを取ろうとも、行き違いで連絡が取れず。入居する前からこうも面談が出来ないのは…。自立度の高い彼は適した方だと思いましたが…。故にお仕事で忙しく、世話人がこんなに関われないのもはじめて。ご縁あっての利用、相互の相性が大切です。

▼編集後記▼

北とぴあで 21 日、『眠らざる南の島』と題する 済州島 4.3 集会があり、『鴉の死』や『火山列島』で知られる９３歳の在日作家・金石範さんが講演された。「南北首脳会談」に先立つ４月３日に文在寅大統領は島を訪れ「済州 4.3 は大韓民国の歴史である」と生存犠牲者と遺族に謝罪と慰霊の言葉を述べた。金石範さんは３年前の集会では「私は韓国籍も北朝鮮籍ももたない無国籍者（ディアスボラ）」と述べられた。今回は”和解と謝罪は島民・植民地権力（軍・警察・右翼）まではきたが、「抗争指導部」まではきていない。彼らの名は刻まれずにいる。その「正名」が刻まれるときこそ「南北和解」は一体のものになる”と語られた。なぜならこの 4.3 抗争は民族の分断に反対し、統一をめざしたものだったからと。ひるがえって沖縄との段差に胸が痛い。

発行所　郵便番号 157-0073　東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会　定価 100 円（会費に含む）